

2023 年度

授 業 計 画

社会福祉士養成学科（昼間課程）



学校法人 敬心学園

東京都知事認可 厚生労働省指定養成施設

日本福祉教育専門学校

「授業計画」の活用法について

この「授業計画」は、みなさんが在籍する学科を卒業するために必要な科目について、学習を進める上での**基本的な設計**が書かれてあります。

【記載事項】

基本的な設計とは、

- (1) 目標・・・何を目指している・何をねらっている科目なのか
 - (2) 指導・・・目標を達成するための学習順序や授業方法、使用する教材等
 - (3) 評価・・・目標の達成度合いをはかること
- です。各科目について右ページの項目で整理・構成されています。

【上手な活用法】

(1) 最初の授業が始まるまで

「ねらい」「到達目標」を確認する

▼障害者に対する支援と障害者自立支援制度の例

●授業のねらい●

障害者福祉制度の変遷を理解するとともに、障害者自立支援制度（障害者総合支援法）の仕組みとその内容について学習する。また、障害者本人への自立に向けた支援のみならず、家族への支援の方法についても習得する。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ・障害者福祉の理念である概念を踏まえ、具体的な障害者への支援の方法と障害者総合支援法の内容について理解ができる。
- ・現代の障害者福祉制度の歴史的変遷を理解し、自分なりに新たな福祉のかたちを構想することができる。

(2) 最初の授業とあわせて

「評価方法」を確認する。**科目の特性により**、評価の方法が異なります。

当校の評価は、「**定期試験**」「**出席率**」の**2つの方法**を採用しています。各科目の特性に応じて、評価における重みには違いがありますが、授業に全て出席し、授業中に行われる確認テスト（小テスト）や各種レポート課題などもしっかり提出することで、定期試験でもよりよい評価が得られるという基本的な考え方はいずれの科目にも共通します。従いまして、授業の中で実施する各種テストや個別に提示される課題の提出状況なども上記の中で評価されます。

(3) 日頃の授業とあわせて

「授業計画」における進み具合（現在の位置）を確認する。

※予習・復習をしたり見通しをもって授業に参加したりすることで日々の授業での理解が高まり、定期テストなどの直前の学習に余裕ができます。

予習・復習の活用例

授業の前に重要な法律名や用語、人物名を確認しておく

①②③と続く内容がおわったところで①～③までつながりで確認しておく

授業で小テストがあったら、正解していてもなぜそれが正解かを言えるようにする

わからないことがあれば、リアクションペーパーに質問を整理して提出する

「授業計画」の活用法について

科目名

■障害者に対する支援と障害者自立支援制度

講師名

高田 次郎丸

2CW1・2 / 講義 / 2単位 / 半期 / 必修 (15回)

期間や回数等

本科目の学習で
目指すこと

●授業のねらい●

障害者福祉制度の変遷を理解するとともに、障害者自立支援制度（障害者総合支援法）の仕組みとその内容について学習する。また、障害者本人への自立に向けた支援のみならず、家族への支援の方法についても習得する。

学習の結果必ず到達
したい状態目標

●授業の方法●

教科書や配布プリントに沿って講義しつつ、事例検討を積極的に取り入れて進める。また、進行度合いに応じて、介護福祉士国家試験の過去問題等にも触れる。

授業の方法や形式

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ・障害者福祉の理念である概念を踏まえ、具体的な障害者への支援の方法と障害者総合支援法の内容について理解ができる。
- ・現代の障害者福祉制度の歴史的変遷を理解し、自分なりに新たな福祉のかたちを構想することができる。

授業の進め方
学習項目のおよその
ながれ・見通し

●授業計画（講義の流れ）●

1. オリエンテーション、障害者の自立について
2. 障害者制度の歴史的変遷①
3. 障害者制度の歴史的変遷②
4. 障害者自立支援制度（障害者総合支援法）の概要
5. 障害者自立支援制度と関連法令
6. 障害者への支援の方法
7. 事例検討①
8. 事例検討②
9. 障害者への支援の方法（外部講師）
10. 事例検討③
11. 障害者の家族への支援の方法
12. 事例検討④
13. サービス等利用計画案の作成①
14. サービス等利用計画案の作成②／今講義まとめ
15. 定期試験

※講義の進度により、講義
内容や順序が変更になる場
合があります。

●成績評価・講義上の注意●

成績評価における
各方法がしめる割合

定期試験 70%、出席率 30%

●教科書●

『新・介護福祉士養成講座 2 社会と制度の理解 第6版』
中央法規

授業で使用する教科書

※その他、参考図書や資料がある場合は、講師より授業にて紹介します。授業等の時間にご自身でしっかり確認をし、学習に役立ててください。
※授業でプリントや資料が配布された場合は、教科書とあわせて重要な学習教材となります。

■人体の構造と機能及び疾病

近藤 真名美

W昼1・2／講義／2単位／半期／必修（15回）

●授業のねらい●

人間の体の仕組みと機能を理解する。また、生活習慣病をはじめとする疾病について理解する。

●授業の方法●

テキスト・必要資料を参照し講義をすすめる。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

人間の体の仕組みと（発達と老化を含め）精神機能の関連性を理解した上で、利用者への関わりが出来る。国家試験合格に向け、必要な知識を習得する。

●授業計画（講義の流れ）●

1. オリエンテーション第7章健康の捉え方
2. 第1章 人の成長・発達と老化
3. 第2章 身体の構造と心身機能①
4. 同上②
5. 同上③
6. 第3章 疾病の概要①…第2章をふまえて
7. 同上②
8. 同上③
9. 同上④
10. 同上⑤
11. 第4章 障害の理解①
12. 同上②
13. 同上③
14. 第5章 リハビリテーションの概要 第6章 国際生活機能分類の考え方
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 90%、出席率 10%

●教科書●

「新・社会福祉士養成講座1 人体の構造と機能及び疾病」
(中央法規)

■心理学理論と心理的支援

綿引 一貴

W昼1・2／講義／2単位／半期／必修（15回）

●授業のねらい●

心理学における人の理解とその技法の基礎について理解し、人に説明できる。

●授業の方法●

パワーポイントを用いた講義形式の授業を中心に、演習やワークなどを挟みながら進める。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

国家試験合格に向け、心理学理論と心理的支援に対する必要な知識を習得する。

●授業計画（講義の流れ）●

1. オリエンテーション
2. 感情・動機づけ・欲求
3. 感覚・知覚
4. 学習①
5. 学習②
6. 認知
7. 知能・パーソナリティ
8. 社会のなかでの心理
9. 発達と心理
10. 心の発達の基盤
11. ストレスとストレッサー
12. 心理検査
13. 心理療法
14. まとめ
15. 前期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 70%、出席率 30%

●教科書●

「最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座2
心理学と心理的支援」(中央法規)

■社会理論と社会システム

石川 秀志

W 昼 1・2 / 講義 / 2 単位 / 半期 / 必修 (15 回)

●授業のねらい●

- ・社会理論による現代社会の捉え方を理解する
- ・生活について理解する
- ・人と社会の関係について理解する
- ・社会問題について理解する

●授業の方法●

社会現象（事例＆国試等）を用いて、社会学者の方法論や理論を検討する。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

国家試験の過去問 3 年間の問題について、問題の各選択肢の正誤を説明できるようになる。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 科目の紹介、国家試験の傾向
2. 方法論的集合主義
3. 方法論的個人主義
4. 社会集団及び組織Ⅰ（社会集団の概念、集団の類型）
5. 社会集団及び組織Ⅱ（組織の概念、官僚制）
6. 家族—家族の概念、家族の変容、家族の機能
7. 地域社会—地域の概念、都市化と地域社会、地域社会の集団・組織
8. 人と社会の関係Ⅰ（社会的行為、社会的役割）
9. 人と社会の関係Ⅱ（社会的ジレンマ）
10. 社会変動—社会変動の概念、近代化、情報化
11. 社会問題の捉え方—社会病理、逸脱
12. 社会問題の理解—具体的な社会問題（差別・自殺等）
13. 過去問研究Ⅰ（第 27 回、28 回、29 回）
14. 過去問研究Ⅱ（第 30 回、31 回、32 回）
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験（80%）、出席率（20%）

●教科書●

社会福祉士シリーズ 3 『社会理論と社会システム』（弘文堂）

■現代社会と福祉

東 康祐

W昼1・2／講義／4単位／通年／必修（30回）

●授業のねらい●

社会福祉士として必要な「現代社会と福祉」に関する基礎知識を体系的に学ぶことがこの授業の狙いである。具体的には、①現代社会における福祉制度の意義や理念・福祉政策との関係、②福祉の原理をめぐる理論と哲学、③福祉政策におけるニーズと資源、④福祉政策の課題、⑤福祉政策の構成要素、⑥福祉政策と関連政策の関係、⑦相談援助活動と福祉政策の関係、について学んでいく。

●授業の方法●

基本的には教科書の流れに沿うが、出典や最新の動向等についての資料を配付しながら講義形式で行う。また、国家試験の過去問などを用いて知識の定着を図りながら進めていく予定である。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

社会福祉士として必要な「現代社会と福祉」に関する基礎知識（具体的には、授業の狙いで示した①～⑦）を体系的に理解した上で、①説明できること、②議論できること、が到達目標である。なお、「国家試験の問題が解けること」は当然である。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 福祉制度と福祉政策①（福祉制度の概念と理念）
2. 福祉制度と福祉政策②（福祉政策の概念と理念）
3. 福祉制度と福祉政策③（福祉制度と福祉政策の関係）
4. 福祉制度と福祉政策④（福祉政策と政治の関係）
5. 福祉制度と福祉政策⑤（福祉政策の主体と対象）
6. 福祉の原理をめぐる理論と哲学①（分配的正義に関する規範理論）
7. 福祉の原理をめぐる理論と哲学②（シティズンシップ）
8. 福祉制度の発達過程①（前近代社会と福祉）
9. 福祉制度の発達過程②（近代社会と福祉）
10. 福祉制度の発達過程③（現代社会と福祉）
11. 福祉政策におけるニーズと資源①（ニーズ、需要、資源、供給）
12. 福祉政策におけるニーズと資源②（ニーズ概念の類型）
13. 福祉政策の課題①（福祉政策と社会問題）
14. 福祉政策の課題②（福祉政策の現代的課題）
15. 定期試験
16. 福祉政策の課題③（福祉政策の課題と国際比較）
17. 福祉政策の構成要素①（福祉政策の論点）
18. 福祉政策の構成要素②（政府の役割）
19. 福祉政策の構成要素③（市場の役割）
20. 福祉政策の構成要素④（国民の役割）
21. 福祉政策の構成要素⑤（手法と政策決定過程と政策評価）
22. 福祉政策の構成要素⑥（福祉供給部門）
23. 福祉政策と関連施策⑦（福祉供給過程）
24. 福祉政策と関連施策⑧（福祉利用過程）
25. 相談援助活動と福祉政策①（福祉政策と教育政策）
26. 相談援助活動と福祉政策②（福祉政策と住宅政策）
27. 相談援助活動と福祉政策③（福祉政策と労働政策）
28. 相談援助活動と福祉政策④（福祉供給の政策過程と実施過程）

29. まとめ

30. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 100%

●教科書●

『社会福祉士シリーズ4 現代社会と福祉 第5版』（福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂）

■地域福祉の理論と方法

瀬戸 眞弓

W昼1・2／講義／4単位／通年／必修（30回）

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 70%、出席率 30%

●教科書●

『地域福祉の理論と方法 第3版』福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂（2017）

●授業のねらい●

地域福祉を実践できる知識と実践力を身につける。社会資源の連携のみならず、社会資源を地域で開発できる力の習得も目指す。

●授業の方法●

授業は毎回教科書とプリントを使用する。具体的な事例を用いて、考察を深めていく。国試に向けて、問題文の解き方を説く。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

1. 地域福祉の理念や枠組みについて理解することができる
2. 地域福祉の基盤となる考え方（共生社会、社会的包摂など）について理解することができる
3. 地域福祉の主体と対象について理解することができる
4. 地域福祉の推進方法（ニーズ把握、連携、資源創出、評価など）について理解することができる
5. 地域福祉の動向と展望について理解することができる

●授業計画（講義の流れ）●

1. 地域福祉とは何か
2. 地域福祉の基盤となる理念
3. コミュニティの範囲と機能①（地域の理解）
4. コミュニティの範囲と機能②（地域の機能）
5. 「地域」を知る
6. 地域福祉理論と発展過程①（イギリス・アメリカ）
7. 地域福祉と発展過程②（日本 理論の展開）
8. 地域福祉と発展過程③（日本 実践の展開）
9. 地域福祉の主体と対象①（主体とは）
10. 地域福祉の主体と対象②（福祉教育とその方法）
11. 地域福祉における地方自治体の役割（地方分権と意義）
12. 地域福祉における地方自治体の役割（地域福祉計画）
13. 地域福祉における民間の役割①（社会福祉法人）
14. 地域福祉における民間の役割②（特定非営利活動法人、コミュニティビジネス）
15. 定期試験（前期）
16. 地域における民間の役割④（民生委員、保護司など）
17. 社会福祉協議会①（歴史と役割）
18. 社会福祉協議会②（活動とその実際）
19. ボランティア活動
20. 地域における専門職の役割
21. ネットワーキング
22. 地域における社会資源の活用、調整、改善、開発
23. 地域における福祉ニーズの把握方法と実際
24. 地域包括ケアシステムの構築方法と実際①（高齢者）
25. 地域包括ケアシステムの実践事例（高齢者）
26. 地域包括ケアシステムの構築方法と実際②（障害者）
27. 地域包括ケアシステムの構築方法と実際③（児童）
28. 地域における福祉サービス評価の方法と実際
29. 災害と地域福祉について/全体のまとめ
30. 定期試験（後期）

■福祉行財政と福祉計画

蟻塚 昌克

W昼1・2／講義／2単位／半期／必修（15回）

●授業のねらい●

社会福祉を理解するためには、福祉行財政と福祉計画の知識は必須である。授業のなかでは、福祉行財政の仕組みや福祉行政・団体・専門職、福祉計画の目的と意義等の理解を深めることによって、社会福祉の全体像をつかむことを目指す。

●授業の方法●

講義形式。質問は適宜受け付ける。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

国家試験合格に必要な知識を身につけることができる。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 授業内容と目標
2. 福祉行財政と福祉計画（1）
3. 福祉行財政と福祉計画（2）
4. 福祉行政
5. 福祉財政
6. 福祉行政の組織・団体と専門職の役割（1）
7. 福祉行政の組織・団体と専門職の役割（2）
8. 福祉計画の目的と意義
9. 福祉計画の理論と技法
10. 福祉計画の理論と技法（1）
11. 福祉計画の理論と技法（2）
12. 福祉計画の実際（1）
13. 福祉計画の実際（2）
14. まとめ
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 70%、出席率 30%

●教科書●

「社会福祉学習双書 2020 社会福祉概論Ⅱ」 全国社会福祉協議会

●授業のねらい●

社会福祉士として活躍するのに必要な社会保障に関する基礎を体系的に理解することを目標とする。具体的には、①現代社会における社会保障制度の課題、②発達過程を含めた社会保障の概念や対象及びその理念等、③公的保険制度と民間保険制度の関係、④社会保障制度の体系と概要、⑤年金保険制度及び医療保険制度の具体的内容、⑥諸外国における社会保障制度の概要の理解を目指す。

●授業の方法●

基本的には教科書の流れに沿うが、必要に応じて資料を配付しながら講義形式で行う。また、国家試験の過去問などを用いて知識の定着を図りながら進めていく予定である。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

社会福祉士として必要な「社会保障」に関する基礎知識（具体的には、授業の狙いで示した①～⑥）を体系的に理解した上で、①説明できること、②議論できること、が到達目標である。なお、「国家試験の問題が解けること」は当然である。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 社会保障制度の課題①（人口動態の変化、少子高齢化）
2. 社会保障制度の課題②（労働環境の変化）
3. 社会保障の概念・対象及び理念①（概念と範囲）
4. 社会保障の概念・対象及び理念②（役割と意義）
5. 社会保障の概念・対象及び理念③（理念）
6. 社会保障の概念・対象及び理念④（対象）
7. 社会保障の概念・対象及び理念⑤（発達）
8. 社会保障の財源と費用①（社会保障の財源）
9. 社会保障の財源と費用②（社会保障給付費）
10. 社会保障の財源と費用③（国民負担率）
11. 社会保険と社会扶助の関係（社会保険の概念と範囲）
12. 公的保険制度と民間保険制度の関係
13. 社会保障制度の体系①（年金保険制度の概要）
14. 社会保障制度の体系②（医療保険制度の概要）
15. 定期試験
16. 社会保障制度の体系③（介護保険制度の概要）
17. 社会保障制度の体系④（労災保険制度の概要）
18. 社会保障制度の体系⑤（雇用保険制度の概要）
19. 社会保障制度の体系⑥（社会福祉制度の概要）
20. 社会保障制度の体系⑦（生活保護制度の概要）
21. 社会保障制度の体系⑧（家族手当制度の概要）
22. 年金保険制度の具体的内容①（国民年金）
23. 年金保険制度の具体的内容②（厚生年金）
24. 年金保険制度の具体的内容③（各種共済組合の年金）
25. 医療保険制度の具体的内容①（国民健康保険）
26. 医療保険制度の具体的内容②（健康保険）
27. 医療保険制度の具体的内容③（各種共済組合の医療保険）
28. 先進諸国における社会保障制度の概要
29. まとめ
30. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 100%

■低所得者に対する支援と生活保護制度

東 康祐

W昼1・2／講義／2単位／半期／必修（15回）

●授業のねらい●

社会福祉士として必要な「低所得者に対する支援と生活保護制度」に関する基礎知識を体系的に学ぶことがこの授業の狙いである。具体的には、①低所得階層の生活実態、②低所得階層の生活を取り巻く社会情勢・福祉需要とその実際、③相談援助活動において必要となる生活保護制度や生活困窮者自立支援制度などの関連する法や制度、④自立支援プログラムの意義と実際、について理解することがこの授業の目的とである。

●授業の方法●

教科書の流れに沿いつつ、配付資料を用いて講義形式で行う。また、国家試験の過去問などを用いて知識の定着を図りながら進めていく。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

低所得者に対する支援について深く理解していくための基礎（具体的には、授業の狙いで示した①～④）を体系的に理解した上で、①説明できること、②議論できること、が到達目標である。なお、「国家試験の問題が解けること」は当然である。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 低所得階層の生活実態とこれを取り巻く社会情勢、福祉需要
2. 生活保護費と保護率の動向
3. 生活保護制度①——生活保護法の概要
4. 生活保護制度②——国・都道府県・市町村の役割、ハローワークの役割
5. 生活保護制度③——現業員・査察指導員の役割
6. 生活保護制度④——保険と医療の連携
7. 生活保護制度⑤——労働施策との連携、その他の施策との連携
8. 福祉事務所の役割と実際①——福祉事務所の組織体系
9. 福祉事務所の役割と実際②——福祉事務所の活動の実際
10. 自立支援プログラムの意義と実際（自立支援プログラムの目的、自立支援プログラムの作成過程と方法、自立支援プログラムの実際）
11. 低所得者対策①——ホームレス対策
12. 低所得者対策②——生活困窮者自立支援法の概要
13. 低所得者対策③——生活福祉資金の概要
14. 低所得者対策④——自立支援の実際、無料定額診療制度、公営住宅、子どもの貧困対策の推進に関する法律の概要
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 100%

●教科書●

『社会福祉士シリーズ16 低所得者に対する支援と生活保護制度 第5版』（福祉臨床シリーズ編集委員会編 弘文堂）

■保健医療サービス

西田 純子

W昼1・2／講義／2単位／半期／必修（15回）

●授業のねらい●

医療環境の歴史的推移を踏まえ、現在の医療環境を理解し医療福祉の理念を学ぶ。

また、国民医療費の状況や医療保険制度、診療報酬制度に関する基本的な事項、チーム医療を実現するために必要な各専門職の役割と機能の理解を行う。

さらに様々な事例を通し、あらゆる疾患から派生する課題を医療ソーシャルワーカーの業務実践から理解し、医療・福祉専門職との連携や協働のあり方について学ぶことを目的としている。

●授業の方法●

講義形式

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ・国民医療費の状況、医療保険制度、診療報酬制度などの諸制度を理解し、説明することができる。
- ・医療提供施設の種類や役割に関する基本的な構造について理解し、説明することができる。
- ・チーム医療における各専門職の役割と機能について理解し、説明することができる。
- ・保健医療に関わる専門職との連携・協働体制について理解し、説明することができる。

●授業計画（講義の流れ）●

1. ガイダンス 保健医療サービスで学ぶこと
2. 医療費に関する政策動向
3. 医療保険制度・高額療養費制度の仕組み
4. 診療報酬制度の理解
5. 医療提供施設の種類と機能
6. 医療機能分化政策と医療機関が置かれている現状
7. 保健医療サービスにおける専門職の役割と実際
8. 医師の役割とインフォームド・コンセントの意義と実際
9. 保健師、看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士の役割
10. 医療ソーシャルワーカーの役割と業務指針の理解
11. 医療ソーシャルワーカーの働き「経済的支援、心理的支援、受診・受療援助の実際」
12. 医療ソーシャルワーカーの働き「退院援助、社会復帰援助の実際」
13. 保健医療に関わる専門職との連携・協働
14. 事例検討
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験の成績 80%、授業への参加態度 20%

●教科書●

最新 社会福祉士養成講座「保健医療と福祉」（一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集）（中央法規出版2021年）

■権利擁護と成年後見制度

森 長秀

W昼1・2／講義／2単位／半期／必修（15回）

●授業のねらい●

成年後見制度および権利擁護のあり方について、国家試験に合格する知識・学力を修得するとともに、資格取得後に相談援助活動の実務において活用しうる制度理解を養うことを目標とする。

●授業の方法●

下記シラバスの内容に従い、テキストおよび六法を用いて講義形式で進めていく。あわせて、時間の許す限りにおいて、国家試験対策として過去問演習やその他の問題演習を行う。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

当該科目における国家試験問題に対応できる（＝合格レベル）学力と、実務において活用可能な制度理解を養う。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 成年後見制度の概要①（法定後見制度）
2. 成年後見制度の概要②（任意後見制度）
3. 日常生活自立支援事業の概要
4. 成年後見制度利用支援事業の概要
5. 権利擁護に係るマンパワー
6. 権利擁護に係る組織
7. 団体の役割と実際
8. 権利擁護と相談援助活動
9. 権利擁護活動の実務と今後の動向
10. 相談援助活動と法との関わり①（権利擁護と社会福祉相談援助の意義）
11. 相談援助活動と法との関わり②（日本国憲法と権利擁護）
12. 相談援助活動と法との関わり③（民法と権利擁護）
13. 相談援助活動と法との関わり④（行政法と権利擁護）
14. 相談援助活動と法との関わり⑤（社会福祉関連各法と権利擁護）
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 100%

●教科書●

『権利擁護と成年後見制度』（第4版）社会福祉シリーズ19（弘文堂）

■社会調査の基礎

田北 康成

W昼1・2／講義／2単位／半期／必修（15回）

●授業のねらい●

社会調査の意義と諸類型に関する基本事項の全般的な把握と理解をした上で、実務への応用を学ぶ。

●授業の方法●

社会調査がどのようにはじめられて発展してきたか、なぜ社会調査をする必要があるのかといった意義や目的を学び取った上で、量的調査や質的調査など、問題意識や収集したいデータに応じた調査方法にどのようなものがあるかを把握できるよう概説する。また、調査で必要となる倫理、問題意識の設定から先行研究の分析、仮説の立て方、資料やデータの収集から分析までのフローに関する基礎的な事項についても触れる。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

科学的方法論に基づいたデータ収集と分析手法を学ぶことで、研究・学問上の必要だけでなく、実務上にあらわれるニーズ把握や問題対処の場において、課題解決に資するような実践的な能力を身につけられることを目標とする。

●授業計画（講義の流れ）●

1. イントロダクション／評価方法の説明
2. 社会調査とは何か（社会調査の目的と意義）
3. 社会調査の歴史
4. 社会調査の倫理・人権、プライバシー・個人情報の保護
5. 研究分析のフロー①問いや仮説の立て方
6. 研究分析のフロー②先行研究やデータの調べ方
7. 社会測定①構成概念・操作概念、指標、直接効果・間接効果等
8. 社会測定②独立変数・従属変数、理論仮説・操作仮説等
9. 調査設計の4類型と尺度水準
10. 量的調査①標本抽出と調査票調査の種類
11. 量的調査②調査票の作成1
12. 量的調査③調査票の作成2
13. 質的調査の基本
14. 質的調査の実践
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 80%、出席率 20%

●教科書●

社会福祉シリーズ5『社会調査の基礎』（弘文堂）

■相談援助の基盤と専門職

小泉 浩一

W昼1・2／講義／4単位／通年／必修（30回）

●授業のねらい●

社会福祉の相談援助（ソーシャルワーク）に携わる上での、基盤となる知識を習得する。具体的には、社会福祉士等の定義・義務・連携、ソーシャルワークの定義・原理・理念、倫理・権利擁護、ソーシャルワークの歴史の変遷、精神保健福祉・教育等の分野別相談援助などである。本科目単体としての知識ではなく、他科目とも連動した広がりのある知識を得ることを目指す。

そして、社会福祉士の国家試験対策を随時並行して実施し、国家試験に対応した知識を併せて得る。

●授業の方法●

レジュメを軸として授業を行う。さらに、ソーシャルワークの現場とのつながりを意識した講義も実施する。また、必要に応じて教科書やプリント等を使用する。その他、進捗に応じて、国家試験の過去問等を随時使いながら、国家試験と連動した知識の定着を図る。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

社会福祉士を中心に、社会福祉を取り巻く相談援助（ソーシャルワーク）の知識と歴史の変遷を理解した上で、専門職として必要な視野とアイデンティティの基礎を説明することができる。

また、国家試験における関連知識を必須として、国家試験に向けた準備を随時行い、国家試験での8割以上の得点を目指す。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 社会福祉における相談援助とソーシャルワーク
2. 専門職としての社会福祉士・精神保健福祉士
3. 相談援助（ソーシャルワーク）の概念と範囲：国内・諸外国
4. 相談援助（ソーシャルワーク）の理念：価値・倫理・人権尊重ほか
5. 相談援助（ソーシャルワーク）の理念：社会正義とソーシャルワークのグローバル定義
6. 相談援助（ソーシャルワーク）の理念：自立支援
7. 相談援助（ソーシャルワーク）の理念：自己決定・意思決定
8. 相談援助（ソーシャルワーク）の理念：ノーマライゼーション、社会的包摂
9. 相談援助（ソーシャルワーク）の位置づけ：社会資源との関連
10. 相談援助（ソーシャルワーク）の構造と機能：個別性、全体性
11. 権利擁護①：相談援助（ソーシャルワーク）における権利擁護
12. 権利擁護②：権利擁護の実際と高齢者
13. 権利擁護③：権利擁護の実際と障害者
14. 倫理①：概念、倫理綱領
15. 定期試験
16. 倫理②：倫理的ジレンマ
17. ソーシャルワークの歴史①：源流
18. ソーシャルワークの歴史②：源流後期から形成期

19. ソーシャルワークの歴史③：確立期
20. 21. ソーシャルワークの歴史④：発展期
22. ソーシャルワークの歴史⑤：現代に通じる実践の流れとして
23. 24. ソーシャルワークの歴史⑥：日本（戦前）
25. 26. ソーシャルワークの歴史⑦：日本（戦後）
27. ソーシャルワークの歴史⑧：精神保健福祉の歴史
28. 医療・精神保健福祉・教育・司法における相談援助
29. 総括・補足
30. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験80%、平常点20%（出席、意欲、態度など）とし、総合的に評価します。

●教科書●

『相談援助の基盤と専門職－社会福祉士シリーズ6』（弘文堂）

■相談援助の理論と方法Ⅰ

斎藤 美弥子

W星1・2／講義／Ⅱと合わせて8単位／通年／必修（Ⅱと合わせて60回）

●授業のねらい●

相談援助の基礎知識である「理論と方法」を理解し、習得すること。ここで学んだ基礎的知識が将来、対人援助の専門職として基盤となる事を目標とする。

●授業の方法●

講義形式。毎回、レジュメを配布。授業の復習として国家試験の過去問題や予想問題に取り組む。また、相談援助技術習得のため、適宜ロールプレイを取り入れる。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

相談援助の基礎知識や支援の方法などの学びを通じ、理論を基盤とし、クライアントの主体性を尊重して相談援助を実践できるソーシャルワーカーを目指す。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 相談援助とは①
2. 相談援助とは②
3. 相談援助の構造と機能①
4. 相談援助の構造と機能②
5. 人と環境の交互作用①
6. 人と環境の交互作用②
7. 人と環境の交互作用③
8. 相談援助における援助関係①
9. 相談援助における援助関係②
10. 相談援助の展開過程について
11. ケースの発見
12. インテーク／ニーズ確定
13. ニーズ確定／アセスメント
14. 目標設定／プランニング
15. 定期試験
16. 支援の実施
17. モニタリング／再アセスメント
18. 支援の終結／予防的対応
19. 相談援助におけるアウトリーチの技術
20. 相談援助における契約の技術
21. 相談援助のためのアセスメントの技術
22. 相談援助における面接
23. 演習（相談援助面接）
24. 相談援助のための介入の技術
25. 相談援助のためのモニタリング・再アセスメント
26. 相談援助における記録の役割と技術（演習）
27. 相談援助のための効果測定・評価
28. 多機関・多職種連携
29. まとめ
30. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 70%、出席率 30%

●教科書●

『新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法Ⅰ』社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規

■相談援助の理論と方法Ⅱ

井上 健朗

W星1・2／講義／Ⅰと合わせて8単位／通年／必修（Ⅰと合わせて60回）

●授業のねらい●

ソーシャルワーク実践の基礎知識である様々な「理論と方法」を理解し、習得することを目的とする。対人援助を行う際に理論を用いる意義について理解する。

●授業の方法●

講義、事例への適用、もしくは演習および知識確認テストの繰り返して講座を進める。本講座受講生は、能動的に演習や課題に取り組むことを期待します。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

ソーシャルワーク実践に必要な基礎的な理論と方法の理解ができ、実践に用いることができるようになる。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 相談援助対象の理解 概念と定義
2. 相談援助対象の理解 対象理解
3. ケースマネジメントⅠ（用法とプロセスの理解）
4. ケースマネジメントⅡ（事例を用いた演習）
5. グループを活用した相談援助Ⅰ
6. グループを活用した相談援助Ⅱ
7. コーディネーションとネットワーキング
8. 社会資源の活用・調整・開発
9. ソーシャルアクションによるシステムづくり
10. 心理社会的アプローチ／診断主義と機能主義
11. 問題解決アプローチ／課題中心アプローチ
12. 危機介入アプローチ／行動変容アプローチ
13. エンパワメントアプローチ／フェミニストアプローチ
14. システム理論に基づくアプローチ／エコロジカル・モデル
15. 定期試験
16. 認知行動療モデル／解決志向アプローチ
17. ストレングスモデル／実存主義／その他
18. 様々な実践モデルとアプローチの選択／相互連結理論
19. スーパービジョンとコンサルテーション
20. ケースカンファレンスの技術Ⅰ
21. ケースカンファレンスの技術Ⅱ
22. 相談援助における個人情報の保護／相談援助における情報通信技術の活用
23. 地域に対するアプローチ
24. 相談援助における人の理解と関係形成
25. 面接技法とトレーニング
26. 事例研究・事例分析Ⅰ
27. 事例研究・事例分析Ⅱ
28. 相談援助の実践
29. 相談援助に理論を用いるということ
30. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 80%、講義ごとのリアクションペーパー 20%

●教科書●

『新・社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法Ⅱ』社会福祉士養成講座編集委員会編、中央法規

■福祉サービスの組織と経営

金井 直子

W昼1・2／講義／2単位／半期／必修（15回）

●授業のねらい●

多くの社会福祉士が法人や機関という組織に属し、相談援助を中心とした幅広い業務を担っているなかで、社会福祉士を目指す皆さんにも福祉サービスの組織や経営に関する知識や方法を学ぶことが不可欠である。そのため本科目では、社会福祉士が関わる福祉経営のあり方や理論、そして実際について学ぶ。

●授業の方法●

授業では毎回焦点化したプリント（重要なキーワード及び過去問、参考資料等も含め）を配布しそれらを中心に授業を進めていく。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

福祉サービスに係る組織や団体について理解できる。

福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論について理解できる。

福祉サービス提供組織の経営と実際について理解できる。

福祉サービス提供組織のコンプライアンスとガバナンスについて理解できる。

福祉サービス提供組織における人材養成と確保について理解できる

働きやすい労働環境の整備について理解できる。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 福祉サービスに係る組織や団体①（社会福祉法人制度）
2. 福祉サービスに係る組織や団体②（特定非営利活動法人制度）
3. 福祉サービスに係る組織や団体③（その他の組織や団体）
4. 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論①（組織）
5. 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論②（経営・管理運営）
6. 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論③（集団の力学）
7. 福祉サービスの組織と経営に係る基礎理論④（リーダーシップ）
8. 福祉サービス提供組織の経営と実際①（経営体制、財源）
9. 福祉サービス提供組織の経営と実際②（コンプライアンスとガバナンス）
10. 福祉サービス提供組織の経営と実際③（人材の養成と確保）
11. 福祉サービス提供組織の経営と実際④（財務諸表の理解他）
12. 福祉サービスの管理運営の方法と実際①（サービス提供体制の確保）
13. 福祉サービスの管理運営の方法と実際②（働きやすい労働環境の整備）
14. 総括（福祉サービスの管理運営の実際）
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 80%、授業内小テスト 20%

■高齢者に対する支援と介護保険制度

秋山 雅代／近藤 真名美

W 昼 1・2／講義／4 単位／通年／必修（30 回）

●授業のねらい●

国内人口の高齢化や家族形態の変化などにより、高齢者を支える社会の仕組みは変容を迫られてきた。授業では、加齢に伴う心身の変化や、高齢者を取り巻く環境について理解したうえで、現行の高齢者福祉制度について、ここに至る経緯をふまえて、全体像を把握することを目標とする。さらに、介護過程や介護予防の基本的な考え方についても学ぶ。

●授業の方法●

講義を中心とし、必要に応じて視聴覚資料を使用する。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

高齢社会の実態、および高齢者やその支援者が直面する問題、高齢者を支える制度・施策の全体像を把握し、説明ならびに議論することができる。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 少子高齢社会の現状と動向
2. 高齢者、家族の生活実態と福祉・介護ニーズ
3. 高齢者福祉にかかわる政策
4. 高齢者福祉制度の発展過程
5. 介護保険制度の成り立ち
6. 介護保険制度の概要
7. 介護保険制度の要介護認定
8. 居宅介護支援、介護報酬、事業者指定の仕組み
9. 介護保険サービスの具体像
10. 介護保険制度における専門職・組織及び団体の役割
11. 地域支援事業
12. 地域包括支援センターの役割
13. 地域包括ケアシステム
14. 介護保険制度の最近の動向
15. 定期試験
16. 高齢者の心身の特性（生理的老化）
17. 高齢者の心身の特性（病的老化）
18. 介護の概念、範囲、理念、対象、介護過程の概要、技法
19. 介護予防の必要性、介護予防プランの実際、リハビリテーション
20. 認知症の病理と症状・ケアの基本的考え方
21. 認知症高齢者の実態と介護・福祉ニーズ・認知症ケアの実際
22. 死と終末期ケアの基本的考え方・人間観と倫理
23. 死と終末期ケアの実際
24. 老人福祉法の概要
25. 高齢者虐待防止法と虐待予防の取り組み
26. 高齢者の医療制度
27. 高齢者の移動の安全
28. 高齢者の住まい
29. 高齢者の就労
30. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験成績 70%、平常点 30%の割合で総合的に評価する。

■障害者に対する支援と障害者自立支援制度

片桐 正善

W昼1・2／講義／2単位／半期／必修（15回）

●授業のねらい●

障害とは、その人の心身の機能や能力の問題ではなく、社会との関係のなかで立ち現れる現象である。だとするならば、障害者とは、差別や偏見や配慮の欠如を含む社会環境によって不利益が集中し、「できなくされている人」なのだと理解できよう。近年の障害者福祉は、このような「障害の社会モデル」の考え方を手掛かりに、私たちの新たな生き方や現代社会の別の在り方を考え直すひとつのきっかけを与えてくれる。

この講義においては、入所施設を中心として進められてきた障害福祉政策の歴史を踏まえつつ、その後の障害概念の転換、そして今日の障害者福祉制度を概観する。そのうえで、地域で自律／自立して生きて暮らすために必要な「新たな福祉のかたち」について検討する。

●授業の方法●

教科書を中心にすえた講義形式の授業を、レジュメを使って展開する。また、進捗度合いに応じて講義の妨げにならない範囲で、社会福祉士国家試験の過去問題や模擬問題の解説も行う。

国家試験の過去問の解説は9年分を別途配布する。授業を踏まえて、授業外で並行して過去問に向き合うことを望む。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ①「障害の社会モデル」を理解すること。
- ②現代の障害者福祉の制度を、歴史的観点から、自分なりに評価することができるようになること。
- ③新たな福祉のかたちを構想し、同時に自分がいる社会の新たな在り方を構想できるようになること。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 日本の障害者施策の歴史
2. 障害の概念と理念
3. 障害者の生活実態とニーズ
4. 障害者福祉の法の考え方
5. 障害者福祉の法の考え方
6. 障害者基本法
7. その他の措置的な障害者関連の法
8. その他の措置的な障害者関連の法
9. 障害者虐待防止法、障害者差別解消法
10. 障害者の社会生活参加
11. 障害者総合支援法
12. 障害者総合支援法
13. 障害者総合支援法
14. 障害に対するその他の施策
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 90%、出席率 10%

●教科書●

『社会福祉士シリーズ 障害者福祉』弘文堂

■児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度

秋山 雅代

W昼1・2／講義／2単位／半期／必修（15回）

●授業のねらい●

子どもが置かれている現状や、子ども家庭福祉分野における社会的問題などを理解するとともに、子ども家庭福祉分野における法制度の仕組みやその内容について理解することを目標とする。

●授業の方法●

下記シラバスの内容に従い、テキストやレジュメを使って講義形式で進めていく。また、過去問題などを用い、国家試験と連動した知識の定着を図りながら進めていく予定である。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ・子どもや家庭の生活実態と取り巻く社会情勢、福祉需要について説明することができる。
- ・子ども家庭福祉制度の発展過程や児童の権利について説明できる。
- ・相談援助活動において必要となる子ども家庭福祉分野の法制について理解し、説明することができる。
- ・子ども家庭福祉分野における課題を検討し、必要な支援を検討することができる。

●授業計画（講義の流れ）●

1. オリエンテーション／現代社会と子ども家庭福祉
2. 子ども家庭福祉の発展過程（1）
3. 子ども家庭福祉の発展過程（2）、子どもの権利保障
4. 子ども家庭福祉分野における行政のしくみと機関
5. 子ども家庭福祉の実施体制（1）
6. 子ども家庭福祉の実施体制（2）
7. 子ども家庭福祉の実施体制（3）
8. 子ども家庭福祉サービスの実際（子ども虐待）
9. 子ども家庭福祉サービスの実際（社会的養護）
10. 子ども家庭福祉サービスの実際（女性福祉）
11. 子ども家庭福祉サービスの実際
(ひとり親家庭や子どもの貧困)
12. 子ども家庭福祉サービスの実際（母子保健）
13. 子ども家庭福祉サービスの実際（子育て支援①）
14. 子ども家庭福祉サービスの実際（子育て支援②）
15. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験（100%）

●教科書●

『社会福祉士シリーズ 15 児童・家庭福祉』（最新版）（弘文堂）

■就労支援サービス

村井 真理子

W昼1・2／講義／1単位／半期／必修（8回）

●授業のねらい●

就労に困難を抱える人たちを相談援助により就労へ導くための制度と組織、専門家の役割について学ぶ。

雇用状況と就労現場の課題を知る事で就労支援の必要性を理解し、労働法規と就労支援制度の学習から専門職としての関わり方の重要性を感じ取れるようにする。

●授業の方法●

教科書を中心に制度と組織について講義を行う。

体験学習として就労支援サービスに関わる専門職ワーカーや障害のある当事者等をゲストに招いた講義も予定したい。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ・社会福祉士国家資格取得のための就労支援サービスにおける基礎知識を身につけられる。
- ・専門職として就労支援の相談援助が出来るようになる。
- ・就労支援に関わる法規や組織について説明ができるようになる。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 第1章 就労の意義と就労支援
- 第2章 雇用・就労の動向
2. 第3章 労働法規の概要
3. 第4章 就労支援制度の概要（生活保護制度における就労支援）
4. 第4章 就労支援制度の概要（障害者福祉制度における就労支援）①
5. 第4章 就労支援制度の概要（障害者福祉制度における就労支援）②
6. 第5章 就労支援サービスの実施体制
7. まとめと実践事例
8. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 80%、講義への出席（参加態度）20%

●教科書●

就労支援サービス〔第4版〕－雇用支援・雇用政策〔社会福祉士シリーズ18〕 弘文堂

■更生保護制度

森 長秀

W昼1・2／講義／1単位／半期／必修（10回）

●授業のねらい●

更生保護制度は、司法福祉という、社会福祉と刑事司法の交錯する重要な領域であると同時に、社会福祉士国家試験における専門科目のひとつを構成する重要科目である。

本授業では、“犯罪と刑罰に関する法”の基本的理解を導入とし、「犯罪をおかした成人および少年」の更生に関する制度（更生保護法が中心）、ならびに、「触法精神障害者等を医療につなげるための制度」（心神喪失等医療観察法が中心）の制度理解や知識を習熟することにより、国家試験において4問すべての正解を導くことができるだけの学力を養うことを狙いとして、授業を行う。

この法領域に関する前提知識は全く不要であるが、意欲的な学習姿勢を求めたい。

●授業の方法●

講義形式で行う。テキストを通読し更生保護に関する制度や重要事項を学ぶとともに、過去の国家試験問題等の演習を適宜行うことにより、理解の深化を図る。

●授業終了時の到達課題（到達目標）●

- ①更生保護や医療観察制度に関する知識を獲得し、司法福祉や刑事政策についての基本的な理解を深める。
- ②国家試験問題において正答を導くことができる正確な知識と解答能力を習熟する。

●授業計画（講義のおよその流れ）●

1. 更生保護とは何か
2. 更生保護制度の概要（1）
3. 更生保護制度の概要（2）
4. 更生保護制度の概要（3）
5. 更生保護制度の担い手・関係機関
6. 犯罪と刑罰に関する法
7. 矯正施設と処遇
8. 医療観察制度の概要
9. 更生保護における近年の動向と課題
10. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

定期試験 100%

●教科書●

『更生保護制度』（第3版） 社会福祉士シリーズ20（弘文堂）

■相談援助演習

小田 篤美

W昼1・2／演習／5単位／通年／必修（75回）

●授業のねらい●

1. 社会福祉とは何か？
限りなく広がる福祉課題に感度を持ち、考察し、未来を展望する力をつける。
2. 人間とは何か？
多様な人間模様がある。一人ひとりに向き合う力を育て人間関係を楽しむ。
3. 社会とは何なのか？
現実を知る、構造をとらえ、思考し、安心して暮らせる社会を創る。
4. 専門職とは何か？
価値観（人間観・社会観）を揺さぶり・問い、専門性を獲得する。
5. 社会福祉における援助とは何か？
人間の社会で起こる現象を立ち止まって考え、必要な援助を創造する。
未知の人間との出会いに関心を持ち、関係を形成する力を育む。

●授業の方法●

演習は互いに学び合う“peer”の場です。社会の様々な事象を題材にし、グループ討議、全体討議、ロールプレイを通して語り合い、考え合い、安心して学び合う場を創りだす。毎日が援助の基礎学習であり、相談援助を試す場です。積極的にチャレンジしよう！

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

一年間の演習を通して、①社会福祉の仕事に興味関心を持ち意欲的に資格取得を目指す。②人を知り、人生を考え、社会を問う専門職となる。③社会福祉の意味と課題を研究継続し周囲の人々と連帯し社会に発信する実践家となる。

●授業計画（講義の流れ）●

（前期）3コマ×15回

1. 援助の基本①出会い・語らい“peer learning”
2. 援助の基本②「SWの価値・知識・技術」
3. 社会福祉の援助実践：昔（障がい児）
4. 社会福祉の援助実践：今（障がい児）
5. ジェンダーと福祉（生と性）
6. 多文化ソーシャルワーク研究①
7. 多文化ソーシャルワーク研究②
8. 多文化ソーシャルワーク研究③
9. 時事問題研究
10. 司法福祉研究（その1）
11. 司法福祉（その2）
12. 司法福祉（その3）
13. 外国から学ぶ社会福祉政策①
14. 外国から学ぶ社会福祉政策②
15. 振り返りと定期試験

（後期）2コマ×15回

1. 夏の思い出（社会分析）
2. 自己覚知① Empowerment/ Strength
3. 子どもの理解と支援①

4. 子どもの理解と支援②
5. 現場学習（見学 or 招待講師）
6. 人の一生と福祉課題の変容
7. 人間模様Ⅱ研究（その1）
8. 人間模様Ⅱ（その2）
9. 人間模様Ⅱ（その3）
10. 支援課題（社会的排除）
11. 現場学習（見学 or 招待講師）
12. 見えない現実への眼（ハンセン病の歴史を通して）
13. 私たちの社会の構造を考える（ハンセン病対策その後）
14. 社会福祉援助の基本を振り返る
15. 振り返りと定期試験

●成績評価・講義上の注意●

（評価基準）定期試験 70%、出席率 30%

専門家としての基本姿勢を自分で獲得していく場です。あくなき好奇心で人間をとらえ、参加しよう。考え、語り、聴き、伝える力を日々試してください。

●教科書●

テキストは不要。テーマごと資料を用意します。持ち寄りテーマ大歓迎。皆さんの興味関心、時々のお来事で予定も変化します。

■相談援助演習

関根 一春

W昼1・2／演習／5単位／通年／必修（75回）

●授業のねらい●

相談援助者としての基本姿勢と視点について疑似体験等を通し、より実践に近い状態から学習する。また、それぞれが抱えるニーズの理解・とらえ方、そのニーズの解決方法等についても学習し、援助過程・計画を組み立てられ、どのように評価をしていくのかを学習する。

●授業の方法●

理論や方法論の講義を反映し、事例検討ではロールプレイ、グループ討議等を用いる。その体験を通した中から、専門的援助とは何かを考え、課題を解決していくためのアプローチの理解を深める。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

理論や方法論を活用し、それぞれのケースに対応できる発想力と適応力を習得する。

また、自己満足に終わらない支援とはどのようなものか、自らが理想とする社会福祉士像を明確にする。

●授業計画（講義の流れ）●

1. オリエンテーション
- 2～6. 相談援助者の基本姿勢（1）自己理解と他者理解、自己覚知
- 7～12. 相談援助者の基本姿勢（2）コミュニケーション技法 I・II
- 13～18. 相談援助者の基本姿勢（3）バイステックの7原則
- 19～21. 相談援助者の基本姿勢（4）社会福祉士の専門性と倫理観
- 22～24. 相談援助者の基本姿勢（5）権利擁護、プライバシー保護と守秘義務
- 25～27. 相談援助者の基本姿勢（6）インテークにおける注意点と課題
- 28～30. 相談援助者の基本姿勢（7）基本姿勢のまとめ
- 31～36. ソーシャルワーク実践【技法・事例】1 個別援助ケース（基礎）
- 37～42. ソーシャルワーク実践【技法・事例】2 個別援助ケース（応用）
- 43～44. 前期のまとめ
45. 定期試験
- 46～49. ソーシャルワーク実践【技法・事例】3 集団援助ケース（基礎）
- 50～53. ソーシャルワーク実践【技法・事例】4 集団援助ケース（応用）
- 54～55. ソーシャルワーク実践【技法・事例】5 地域援助ケース
- 56～59. ソーシャルワーク実践【技法・事例】6 権利擁護ケース
- 60～61. スーパービジョン
- 62～63. ケアマネジメント実践【理論・技法・事例】ケアマネジメントとは何か
- 64～67. ソーシャルワーク実践【まとめ】インテークからアフターケアまで
- 68～71. リスク・マネジメント【事例】実際の事例から専門職としての対応を考える

72～74. 関連法の理解・後期まとめ

75. 定期試験

●成績評価・講義上の注意●

1. 出席点10%、課題・レポート試験90%の総合評価とする。
2. 講義では、グループ討議やロールプレイが中心となる。グループ討議では、積極的に発言し、他者の発言には耳を傾けること。ロールプレイは疑似体験として学ぶことも多いので、真剣に取り組むこと。

●教科書●

教科書は使用せず、プリントを適宜配布する。

■相談援助実習指導

秋山 雅代・小泉 浩一

W昼1・2／演習／3単位／通年／必修（45回）

●授業のねらい●

1. 相談援助実習の意義について理解する。
2. 相談援助実習に係る個別指導並びに集団指導を通して、相談援助に係る知識と技術について具体的に理解し実践的な技術等を体得する。
3. 社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。
4. 具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる能力を養う。

●授業の方法●

講義や個別とグループなどの演習を交え、レジュメや映像教材、相談援助事例等を活用する。必要に応じて個別ならびに集団指導を行う。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ①実際に実習を行う実習分野や利用者について、施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関して述べるようになる。
- ②社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任を説明できるようになる。
- ③相談援助分野に携わる社会福祉士としての資質が備わり、自己覚知等により、自己の課題を認識することができるようになる。

●授業計画（講義の流れ）●

1. 2. オリエンテーション
3. 4. 機関・施設の調査
5. 6. 機関・施設の調査・発表
7. 8. 実習に向けて①：実習に関する基本的理解、各種調整
9. 10. 実習に向けて②：実習に関する基本的理解、各種調整
11. 12. 実習に向けて③：実習に関する基本的理解、各種調整
13. 14. コミュニケーションスキルを高めるために①
15. 16. コミュニケーションスキルを高めるために②
17. 18. コミュニケーションスキルを高めるために③
19. 20. 倫理、権利擁護、チームアプローチほか①
21. 22. 倫理、権利擁護、チームアプローチほか②
23. 24. 実習記録の意義と記載法
25. 26. 個別支援計画の意義と作成
27. 28. 実習の留意点①
29. 30. 実習の留意点②・確認事項（夏休み前）
31. ～44. 実習報告、グループワークほか
45. まとめ

●成績評価・講義上の注意●

提出物（60％）、出席状況（40％）等にて総合的に評価する。

●教科書●

『社会福祉士シリーズ 22 相談援助実習・相談援助実習指導』

■相談援助実習

秋山 雅代・小泉 浩一・東 康祐

W昼1・2／実習／4単位／通年／必修（180時間）

●授業のねらい●

社会福祉士として必要な「相談援助」の実習を行う。具体的には、①相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等の体得、②社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力の習得、③関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を実践的に理解すること、が狙いである。

●授業の方法●

厚生労働省により示された基準を満たす実習施設等で、基準を満たす実習指導者のもと、所定の時間（180時間以上）の実習を行う。この間、計 回の実習施設等への巡回指導または帰校による指導を受けることが必要である。

●授業修了時の達成課題（到達目標）●

- ・相談援助演習、相談援助実習指導による成果を統合させて、社会福祉士として必要な知識や技能について説明ができるようになる。
- ・社会福祉士として、地域共生社会の実現に向けた地域づくりに必要となる包括的な相談支援体制及び住民主体の地域課題解決体制の構築やその後の運営推進において中核的な役割を担うことの必要性を述べるができるようになる。
- ・具体的内容は以下の通りである。
 - ①利用者やその関係者、施設・事業者・機関・団体等の職員、地域住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成
 - ②利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成
 - ③利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との援助関係の形成
 - ④利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む。）とその評価
 - ⑤多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際
 - ⑥社会福祉士としての職業倫理、施設・事業者・機関・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解
 - ⑦施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際
 - ⑧当該実習先が地域社会の中の設・事業者・機関・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解

●授業計画（講義の流れ）●

実習過程と科目配置は、概ね次のような関係になっている。

- ・実習前及び実習後は「相談援助実習指導」
- ・実習中は「相談援助実習」（本科目）と「相談援助実習指導」

●成績評価・講義上の注意●

各実習施設の評価 50% 及び、巡回指導を基にした教員の評価を 50% として最終的な評価を決定する。

